

# JR東海バス、25春闘第1回団体交渉

## 25年「新賃金及び夏季手当」趣旨説明

2025年3月6日、国労東海自動車協議会はJR東海バス株式会社と「2025年4月1日以降の新賃金等について」及び「2025年夏季手当の支払いについて」の第1回団体交渉「趣旨説明」を行いました。

### 趣旨説明（抜粋）

JR東海バスの2024年度第二四半期決算では営業収益が25億7124万円（対前年同期比2億3724万円増）、営業費用は24億6916万円（対前年同期比6547万円増）となり、営業利益は1億208万円（対前年同期比1億7177万円増）、経常利益は1億2249万円（対前年同期比1億7206万円増）当期純利益は1億1306万円増という大幅黒字となった。大きな収支改善がみられる一方で乗務員不足・要員の不足は改善を見ない。バス事業の来ぞである安全・安定運行を支えているのは、一人ひとりの乗務員や車両係、運行管理などの関係者の昼夜の別ない支えによるものであり、働く者の大幅な賃金引上げによる生活んき全に対するん期待は大きい。また、期末手当に関しても生活給化していることは労使で認識が一致している。会社の業績を支え、安全輸送を最優先に昼夜を分かつ業務に取り組んできた関係社員の労働があつてのことであり会社に対する労働者の期待はより増してきている。

JR東海バス社員の賃金は、昨年ベアゼロではないものの定額に留まっており物価の高騰、先行き不安な年金や社会保障、健康保険料の値上げ等から労働者の厳しさは増しており家族の生活を安定させて将来の不安を払拭するために、国労要求である17,000円のベースアップ、そして定期昇給は4に限らず、4以上を強く求めたい。

夏季手当については、昨年の年末手当が順調な収支回復に伴い社員からは大きな期待が寄せられていたが要求を下回るものであったことはまったくの遺憾であった。現在の経営収支状況は黒字化が確実な状況だと考えるが、今季夏季手当交渉においては、この間大きく支給減となってきた生計費の重要な補填である一時金の回復をはじめ、安定的支給について議論を行っていきたいと考える。国労のアンケートから、組合員の家計は月例賃金では賄えない部分を期末手当で補填している現状や退職後の不安から貯蓄を行う実態もあり、夏季手当に対する期待はこの物価高だからこそ大きく増しており、満額回答を求めるものである。

以上

## 国労東海かべ新聞

国鉄労働組合東海本部 編集責任者：教宣部長